

貝ヨリ出ルモノ也。故ニヤツガレハ、何ツモ石決明ヲ食セシムルニ害ナシ。依テ蛤ヲ食セシムルニ是モ害ナシ。此度ハ麻疹ハ前年ヨリ毒忌ヲ、ク申觸スハ、先年ヨリハ、醫師ニ人物乏ク成タルニヤ、皆病因ニ、臆セルナラン。ヤツガレガ家ニ患タルモノ二十人ニ近ク。今日マデ食セシメタル品ヲ、左ニ記シテマイラセ侍ル。○中略

河鰻、先年流行ノ時、京都山脇道作法眼ヨリ、蒲燒ヲ食セシ人三人即死セルト承リタレバ、告シラセ申ト言贈ケル故ニ、禁ジケルニ。又此度モ死セル人アリト江戸ヨリ言觸ス、誰ト云ル人ナルヤ、タシカハ不知トイヘドモ、カ、ル事ノ侍ルヲ忌ザル事ハ危ト禁ジケル。此外シン菊ヲ喰セシ人即死セリナンド申觸セドモ、信ジガタキ事也。此地方ニテ食物ノ爲ニ即死セル事ハ、イマダ承及バズ候、虚説ナルラント存候。○中略

房事禁ズベシ。吉原ノ娼婦、麻後三十餘日ニテ客ニ接シテ死セリト承ル、可恐事也。此地若キ夫妻ノ共ニ麻疹シタルモ多キ内ニ、何レモ其慎嚴ナルヤ、其害ニ逢ヘル事ハ、未ダ承フラズ候也。享和三年癸亥六月十二日、原玄與謹對。

〔麻疹流行記〕元祿四年辛未三月より夏ニ至リ、諸國ニ麻疹流行せし時、人民不養生をなし、又食毒にあたりて、愁ひを見る事其數を知らず。靈元院法皇様勅詔に依て、名古屋玄醫翁、養生書を撰、普く日本國中に流布なしして、諸人をすくふ。其書予が先祖に傳はり有るに依而此度彫刻して、再び天下に披露せしむるものなり。元祿四辛未年是より十一年目、寶永四丁亥年是より二十一年目、享保十五庚戌年是より二十四年目、寶曆二癸酉年是より十四年目、安永五丙申年是より十八年目、享和三癸亥年是より二十六年目、十餘州津々浦々ニ至ル迄、麻疹流行する事、前代未聞之事也。

京なはて 叶屋喜太郎板

〔時還讀我書上〕癸亥〇年享和ノ麻疫ニ、先君子安元多喜、禁忌一紙ヲ疏シ、刊印シテ衆ニ施シ玉ヘリ、予